

令和5年度 自己評価表

愛媛県立三島高等学校
学校番号 (2)

教育方針	創造性豊かな思考力・判断力と実践力を身に付け、自他の人権を尊重し、国際的視野に立つ社会的な連帯意識を培うとともに、個性を伸ばし、誠実で剛健な気風を養う。	重点目標	「自ら学び、鍛え、考える力の育成」－夢をかなえる三島高校 夢・挑戦・飛翔－ 1 自主的な学習態度の確立 2 基本的な生活習慣の育成 3 人権尊重意識の高揚 4 部活動・ボランティア活動への積極的な参加
------	--	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
学習指導	教科指導の充実	実験・実習等体験的な授業も取り入れ、分かるまでの個別指導を実施する。	B	生徒アンケートの「説明が分かりやすかったか」「内容をよく理解できたか」の項目に対しては、「はい」と答えた生徒の割合は約90%と高かった。	ICT機器を取り入れた授業改善に取り組み、生徒の習熟度に合わせた指導内容となるような工夫が求められる。
		特に1年生に学習方法や授業への取り組み方の細かな指導を行い、学習態度の基本を徹底する。	B	生徒アンケートの「授業を通して、基礎・基本を確実に身に付けることができましたか」の項目に対しては、「はい」と答えた生徒の割合は約90%と高かった。	生徒アンケートの「予習・復習をしていますか」の項目に対しては、「よくできている」と答えた生徒の割合が約39%と低く、前向きに取り組むことができるように働きかける必要である。
	保護者との連携	生徒の学習状況が十分に理解できるような資料等の工夫・改善に努める。	B	三者面談などを通じて、適切な情報や資料の提示を行っている割合は約85%で、昨年度とほぼ同じ水準だった。	新教育課程の生徒からは、観点別学習状況も通知表に記載されるため、生徒の学習状況についてこれまでよりも詳しく説明し協力をお願いしたい。
	家庭学習の充実	計画的に家庭学習に取り組めるよう合理的な量と質の課題を講じる。 家庭学習時間を、普通科180分以上・商業科90分以上となるよう指導する。 普通科 A:180分以上 B:170～180分 C:160～170分 D:150～160分 E:150分未満 商業科 A:90分以上 B:80～90分 C:70～80分 D:60～70分 E:60分未満	B	課題の量や内容は、90%以上の生徒が適切だと回答した。	宿題や予習・復習が十分できていない生徒も一定数いる。学年が上がるごとに増える課題に計画的に取り組ませよう、指導が必要である。
生徒指導	個別指導の充実	三者面談・個人面談を年間6回以上実施するとともに、日常的な生徒との対話や積極的な声掛けを重視する。 A:6回以上 B:5回 C:4回 D:3回 E:2回以下	A	定期的面談に加え、必要に応じて面談ができている。担任以外にも学年主任や課長が面談に加わることもある。	担任が面接をする時間確保については配慮が必要である。
	生活習慣の確立	基本的な生活習慣の確立によって、出席率を98.5%以上にする。また、5分前登校時の指導者を年間のべ200名以下とする。 A:98.5%以上 B:98.4% C:98.3% D:98.2% E:98.1%以下 A:200名以下 B:201～250名 C:251～300名 D:301～400名 E:401名以上	出席率 E 5分前 E	目標値のAを超えたのは、4月のみであった。欠席だけでなく、出席停止も非常に多い2学期の出席率は95.7%であった。休むことへのハードルが低くなっているのが気がある。12月以降5分前登校指導者が多くなったが、余裕を持った登校を意識させ、継続した指導をしていきたい。	コロナウイルスやインフルエンザの影響も大きく、体調管理の難しさが現れた結果だと言える。生活リズムを健全に保つための指導や取組が必要な生徒もおり、長期欠席の生徒も複数人いる状況である。クラス担任、教科担任、部活動など、学校生活のあらゆる場面で継続した呼びかけをすることによって意識の高揚を図っていきたい。
		平素から端正な身だしなみを意識させ、身だしなみ指導合格率95%を目指す。 A:95%以上 B:94% C:93% D:92% E:92%未満	D	1月末までの身だしなみ合格率は92.5%だった。男子生徒の合格率が低下した。	身だしなみ指導のときだけでなく日頃から継続した指導をしていきたい。また、校則の見直し等についても生徒からの意見を参考に、生徒会を中心にして行っていきたい。
	保護者との連携	普段から家庭との連携を密にして、保護者との共通理解に努める。	A	常に家庭との連携を図り、何かあれば電話連絡などができている。	今後も共通理解に努めていきたい。
交通安全指導の充実	登校時の交通安全指導を充実させ、校外での交通安全についての意識の高揚を図る。	B	年間を通じて正門・北門前での登校指導を行った。正門前での自動車の送迎が多くなり危険な場面が多々ある。年間を通じて交通事故は比較的少なかった。	今後も登校指導を継続していきたい。事故を未然に防ぐためにも交通ルールの遵守やマナーの向上、ヘルメットの着用など、今後もいろいろな場面を通して、交通安全意識の高揚を図っていきたい。	

※評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
進路指導	就職指導の充実	就職希望者の就職決定率を100%にする。 就職決定率 A:100% B:90~99% C:80~89% D:70~79% E:70%未満	B	就職内定率は96.6%であった。	・生徒と保護者のニーズに対応し、本人にとって最適な進路実現を目指す。 ・就職試験や就職後に必要な基礎学力、職業観を身に付けさせるとともに、仕事のミスマッチを防ぐ。
		商業科では各種検定において、1年生3級・2年生2級をそれぞれ2種目以上取得させる。3年生は、1級を1種目以上取得させる。3学年全体での取得率平均で A:85%以上 B:70~84% C:60~69% D:50~59% E:50%未満	B	1年生97.4%、2年生51.5%、3年生93.5% 全体で80.8%の達成率である。1,3年生は取得率が上昇したが、2年生は減少した。	・指導の工夫 ・継続的な学習への取組強化 ・適切な課題配布、家庭学習時間の確保 ・検定直前対策（全体指導、個別指導）の強化
	進学指導の充実	進学希望者の進学決定率を100%にする。 進学決定率 A:100% B:90~99% C:80~89% D:70~79% E:70%未満	C	1月末現在、進学希望者の約85%の生徒が進学先を決定している。その他の生徒は、国公立大学や私立大学の一般入試での合格を目指し、学習に励んでいる。	自分の進路や大学・専門学校への興味・関心を持たせるとともに、学習時間を十分確保し、基礎学力を定着させることが必要である。様々な機会を捉え、ディスカッションや意見文・小論文に取り組み、思考力・表現力を高めることも不可欠である。
特別活動	学校行事の充実	国公立大学の合格者数60名以上を目指す。 国公立合格者数 A:60名以上 B:45~59名 C:30~44名 D:15~29名 E:14名以下	C	総合型選抜、学校推薦型選抜での合格者は1月末現在22名である。一般入試受験予定の生徒数を考えても数値目標達成は非常に厳しい状況である。	教員から生徒への情報提供が不足していると感じている。生徒の視野や可能性を広げる助言が行えるよう入試制度や、各大学について研究する必要がある。粘り強く最後まで挑戦させるためにも、早い段階で志望大学を意識させたい。
		クラスや学年の枠を超えた学校行事を通して、人間関係の構築を積極的に図る。	B	創立100周年の記念の行事も多数あり、それらの行事を通して生徒たちは様々なことを学ぶことができ、成長する機会とすることができた。	より良い経験を生徒たちができるように、改善できることから取り組んでいきたい。来年度は体育祭が5月開催となるなど、大きな変化があるので、しっかりと準備を進めていきたい。
	部活動の充実	文武両道を旨とし、部活動加入率を80%以上にする。 A:80%以上 B:78~79% C:76~77% D:74~75% E:74%未満	A	たくさんの生徒が部活動に所属し、日々努力することができた。部活動に加入している生徒が様々な場面で中心となって活動してくれている。	加入率の目標は達成しているものの、一部の活動状況が少ない部活動に集中し、部員不足に悩む部も増えているので、部活動の精選も含めて対策を考えなければならない状況であるといえる。
		県高校総合文化祭への出場4部以上、県高校総体への出場200名以上を目指す。 A:4部 B:3部 C:2部 D:1部 E:0部 A:200名以上 B:180~199名 C:160~179名 D:140~159名 E:140名未満	高文祭 A 県総体 C	高文祭は目標を達成することができたが、県総体については団体種目で出場権を得られなかったこともあり、大幅に出場者数を減らす結果となった。	部員数の確保に苦勞する部活動が多くなっている。生徒数の減少もあるが、運動部離れも進んでいるように感じられるので、中学校との連携を強めるなど、何らかの対策を行わなければならないと考えている。
ボランティア活動の充実	全国大会出場延べ10部以上を実現する。 A:10部以上 B:9部 C:8部 D:7部 E:6部以下	C	目標には届かなかったが、多くの部活動が全国大会出場を果たした。	目標を達成できるように、日々の取り組みを大切にしていきたい。	
	ボランティア活動に力を入れ、地域社会との交流を積極的に行う。ボランティア参加延べ人数150名以上を目指す。 A:150名以上 B:130~149名 C:110~129名 D:90~109名 E:90名未満	A	コロナの制限も大きく緩和され、想定以上の生徒たちがボランティアに参加し、様々な経験をすることができ、成長につながったと考えている。	引き続き多くの生徒たちが参加できるような環境を作っていかなければならないと考えている。	
業務改善	職場環境の整備と適切な勤務時間	職場環境の整備を図り、時間外勤務上限月45時間・年間360時間以内を目指し、時間外勤務時間が月80時間を超える教師の割合を「0」にする。 A:0% B:1~5% C:6~10% D:11~20% E:21%以上	C	本校では、約10%の教員が月の時間外勤務時間が80時間を超えていた。100時間を超える教職員も数名いるので、健康状態等が心配される。 (R03→20% R04→16% R05→10%)	本年度は、10月より「17時までに帰る日」を各教職員が、月4日設定することとした。経過はおおむね良好である。校務等の整頓やICTを利用した合理化により、勤務の均一化を図り、目標達成に向けて努力していきたい。

※評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。